

V 外部評価委員の意見（総評）

1 教育委員会

15回の定例会や臨時会の開催を始め、26回の学校訪問や他団体との懇談会の開催、さらに提言書や委員会だよりの発行など、「行動する教育委員会」としての積極的な取組は評価できる。

近年、行政サイドからの教育委員会への関与の動きがあるが、本市としては粛々と業務を推進していただきたい。

2 教育総務課

教職員の一人一台パソコンの配備や教育用パソコンの配備、更に運用方法やセキュリティ対策など積極的な取組について評価できる。ただ最近の新聞報道にもあったように、外部記録媒体紛失等の事件があとを絶たない。パソコン管理に関する問題・課題は今後更に多くなると考えられるので、社会状況に合わせたルールを作り、安全対策を含め定期的な指導をされたい。また、パソコンの活用による教職員の負担軽減の対策を考える必要がある。

限られた予算の中で各学校からの要望に対して可能な限りの配慮をしている。特に六合東小学校増築事業や台風被害等に対する早急な対応は評価出来る。簡単な修繕などは地域・保護者等の協力を得ることも一つの方法であり、今後の検討課題としていただきたい。施設管理に対する意識は、学校により差があるが、日頃から清掃・点検を通してメンテナンスに関心をもつことで、大規模な修繕になる前の早期な発見・手当ができ、結果的に経費軽減にも繋がる。アフターフォローも含め定期的な指導が必要である。

五和幼稚園の民営化については、関係者に誠意をもって対応し、民営化後に問題が起きることのないような配慮をお願いしたい。平成25年度からの私立幼稚園との連携について早急に検討をされたい。

3 学校教育課

スクールソーシャルワーカーの活用、市立図書館と連携した学校図書館の整備やサタデーオープンスクール事業の開催など、きめ細かな施策の実施により成果をあげており評価できる。子どもや保護者のニーズも多種多様で、その対応は更に厳しくなると予測されるが、引き続き環境整備をお願いしたい。また、必要な人材と専門性を持った職員の配置を進められたい。

学校図書館の整備については、学校により取組に差があるが、地域のボランティアの協力を得て改善が見られる。市立図書館ボランティアを学校に派遣できるような仕組みを確立していただきたい。

朝食摂取の割合及び給食残量の割合が毎年改善されていることは評価できる。朝食を取る大切さを教えることは非常に難しいことと思うが、小学校の時から始めることが必要であり、小学生を持つ親をどのように教育していく

かが課題である。今後も食への感謝の気持ちを培う指導を引き続きお願いしたい。

教育方法研究委員会による授業改善、ALTや有識者の派遣、学習指導支援員の配置、5年未満教員研修の実施など個に焦点を当てた指導方法の工夫・改善がなされており評価できる。教育の平等性に配慮しつつも、児童生徒の個々の才能を自由に伸ばせることのできる環境整備や教職員の資質の向上に期待する。

また、教員の負担をどう軽減していくかを考えないと、子ども達にアドバイスをする心のゆとりも出ないし時間もない。地域には沢山の有識者や協力者がいると思うので、そうした方々の協力で教員の負担も軽減されるのではないか。

学校給食で島田産品の利用率が品目で47%、重量で39%達成。校内放送や展示物等による地場産品や生産者の紹介など、老朽化が目立つ調理施設の整備に工夫を凝らしながら、安全・安心な学校給食を提供していることは評価できる。

民間委託の2つの調理場については直営と異なり、目が行き届かない部分も多少あると思うので、栄養士や委託業者と連携を密にして安心安全な学校給食の提供を望む。

4 社会教育課

公民館を始めとした「しまだ楽習センター」や「金谷宿大学」などの社会教育講座の充実は評価できる。運営面では、常に市民の声を聞き柔軟に対応することや、講座修了者が地域でその成果をボランティアなどとして還元できるような仕掛けや支援をお願いしたい。

野外活動センターと山村都市交流センターは、指定管理者制度の実績を基に効果を検証し、併せて公民館やしまだ楽習センターの運営方法について検討することを希望する。

いきいき子育て勉強会や幼児を持つ親の講座など、親が自分自身を客観的に見ることが出来る講座があり素晴らしいと思う。近くにあって参加しやすい講座の機会を作り、親自身も考える場にしてほしい。

また、社会教育に関する事業はボランティア活動を中心に民間の人材を活用するところが大きい。資格取得やスキルアップのために研修会や講座に出席する際には、更に質の高い事業の実施や幅広い人材を確保するために市からの支援の幅を広げるようお願いしたい。

しまだガンバ、通学合宿、子ども会育成事業などは、学校や家庭では得ることの出来ない体験を自然や異年齢児との共同学習等を通じて、逞しい子ども達を育てる貴重な体験の場である。事業の拡充とともに一人でも多く子どもが参加出来るよう周知・PRに工夫をお願いしたい。なお、はばたけリーダー育成事業では養成されたリーダーが活躍できるような環境整備を期待する。

5 図書館

インターネット予約、学校図書館支援事業、おはなし宅配便事業、雑誌スポンサー制度の導入など受け身の図書館から脱却して攻めの取り組みは評価できる。新図書館では、資料の収集、保存、整理、提供にとどまらず、「新たな安らぎの空間」としての環境整備を期待する。

また、図書館サービスの利用の仕方は人によって違うし、求めるサービスの内容や質も違うため、出来ることと出来ないことを明確にする必要がある。また、利用する市民を協力者として上手く取り込むことも大切である。

一冊の本に出会うことにより、その人の人生を変えることがあるといっても過言ではない。おはなし宅配便やおはなしマラソンに加え、新たに始めたキッズブック事業や学校図書館整備事業など様々な形で本に出会う機会を提供することは子供たちにとって大変意義あることと思う。

地域のボランティアや図書館職員のサポートによる努力の成果として学校図書館の整備が進み大変利用しやすくなり、本を沢山読める環境になっているが、子供達が十分に活用していない。いかにして本を読ませるのかということ先生方や保護者にも考えていただきたい。そういった意味で、本を読まない人をどう取り込んでいくかということは、読書推進を進める図書館の重要な役割である。

6 博物館

小・中学生に島田の歴史・文化に対する関心を持たせるためにはどうしたらいいのか。地域の歴史・文化などについて関心を持たせるということを学校は十分に教えていない気がする。学校の先生方に関心を持たせるとともに、子供達だけでなく、親も含めてどう取り込むか、どの様に仕掛けるかが課題である。

市民ギャラリー「川明け」「川越街道花燈籠」など市民を巻き込んだ新たな取組は、評価できる。このような新規の事業に加えて、こどもの日の集いや邦楽の集いなどにより博物館の観覧者増につなげていただきたい。

文化財保護保存及び活用事業については、平成22年度をもって諏訪原城跡整備基本計画が策定された。計画に沿って着実に整備することを期待する。また、合併後3地区をまとめた文化財冊子の発行は必要であると思うので、実現することを期待する。

7 スポーツ課

当市のスポーツ振興事業は、交流人口の増大を目的とした事業と市民を対象とした事業と二面性を持っている。共存共栄できるような施策をお願いしたい。スポーツ振興が体育協会やスポーツ少年団等の市民レベルで進められていることや、受益者負担の原則からスポーツ教室の有料化を実施したことについては評価できる。更なるスポーツの普及のためにも指導者の積極的かつ計画的な育成を実施し、市民スポーツのレベルアップに繋げていただきたい。

い。

施設の管理運営については指定管理者制度や民間委託などを導入しているため、直接利用者の声を聞く機会が少ないと思われる。指定管理者や委託先との協議の中で市民の声に配慮するようお願いしたい。

スポーツの振興のためには、それを見守っていく島田市民の心や環境などのバックグラウンドをどう整備していくかということが大事である。「一市民一スポーツ」を掲げる島田市として、一層の市民スポーツ推進・振興を図っていただきたい。スポーツ振興が島田市全体の振興に繋がるという大きな使命感を持って進めることを期待する。

8 観光文化課

自主文化事業は島田市の特色を十分に出しているとは言えないので検討の余地があると考え。良質で芸術性の高い事業は人が集まる。公演内容、会場、開催時期など長期的に数年先まで見越した計画が必要である。

また、事業を計画するに当たっては市民の声が反映されているかどうかの問題となるが、計画的なものが分れば市民も納得して協力できると思う。島田らしさを出すには歴史・文化のPRが必要であり、集客のために長期的なビジョンをつくり、市内外に示す必要がある。そのためには長期的な視野と人材育成が必要となる。色々な制約や予算の問題、意見の偏りが心配だが、島田らしさをアピールする事業を考えていただきたい。

文化施設等運営協議会は、指定管理者の評価、自主文化事業の計画、4つの文化施設の事業連携などを行うこととなっている。本来の趣旨に基づき運営される事を希望する。